森

田

弘彦

君

作

 \oplus

永遠に名を要える に名を覇す恵迪寮 な は けいてきりょう 身を刺す北国の

我等が理想何時の日かかれる。 百野人の集いしに 成さざらむとぞ意気高ないを 日かか

吾等が行先に 酔えば肩取り かたと

に光明あ り乱え を酒が 原始に

'n

舞する 杯き 林り

iż

からずや此の饗宴

尽きぬ想いた

燃ゆる

一度歌わ 弊衣破帽の 窈窕多し札幌に ぱっちょうおお さっぽろ れば蛮声 の身なれる ゚ の

ども

木の葉身に降る秋の口ではみずるからではみずるからなる。 仮た ĺΊ この身は一介の 日でに

か野望は永遠に きも 0 と知るとても に

吾ゎ 卑ぃ

鳴ぁ遠ぉ

知る吾がる吾が

野心に

とく手稲ないな 呼離か